

ワークショップのご案内

オンライン開催に変更いたしました

一般社団法人日本箱庭療法学会第34回大会を佐賀市文化会館および西九州大学佐賀キャンパスにて開催いたします。今大会は、12名の先生方にワークショップ講師をお引き受けいただくことができました。

ワークショップの形式は講師に一任しています。コースによって、テーマに即した参加者からの事例提供を募集しています。詳細は各コースの案内をご覧ください。

皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

1. ワorkshop概要

日時： 2021年10月9日（土）9：30～12：00（受付開始 9：00）

会場： オンライン（Zoom開催）

講師： （50音順・敬称略）

A 伊藤 良子	（帝塚山学院大学大学院）
B 岩宮 恵子	（島根大学人間科学部）
C 岡田 康伸	（京都大学名誉教授） （開催中止）
D 河合 俊雄	（京都大学こころの未来研究センター）
E 川寄 克哲	（学習院大学）
F 川戸 圓	（川戸分析プラクシス）
G 北口 雄一	（北口分析プラクシス）
H 桑原 知子	（京都大学名誉教授・放送大学教授）
I 田中 康裕	（京都大学大学院教育学研究科）
J 弘中 正美	（山王教育研究所）
K 森谷 寛之	（京都コラージュ療法研究所・京都文教大学名誉教授）
L ササノ 幸子	（ロサンゼルスユング研究所） （開催中止）

受講費：

	A	B
	7月31日までに 9月17日までに 9月30日までに お申し込みの方	8月1日以降 9月17日以降 B 料金なし
会 員	6,000 円	—7,000円—
非会員	8,000 円	—9,000円—

受講資格： 一般社団法人日本箱庭療法学会正会員。もしくは臨床心理士の有資格者、臨床心理学を学んでいる大学院生、臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方。

2. ワークショップ・コースのご案内

A 分かりにくい箱庭表現—吃音における言葉と身体—

講師：伊藤 良子（帝塚山学院大学大学院）

内容：これまでのワークショップでは、分かりにくい箱庭表現という観点から、自閉症スペクトラム・統合失調症・心身症等の神経症水準に留まらない状態をとりあげてきた。今回は、吃音について考える。吃音は、心理的要因が作用している場合が多いが、成人の心理療法は難しい。それは、言葉と身体という深い次元、さらには鏡像段階にかかわる状態であることによると考えられる。本ワークショップでは、長年にわたって吃音に苦しんできた40代の男性の約5年間の面接過程の中で作成された箱庭表現に焦点を当ててご報告頂く。それに先立って描かれたバウムテスト等の表現とも比較しながら、一見、分かりにくい箱庭表現の重要な意義について、その身体性に着目して検討する。

事例提供者：浅田 剛正 氏

B 度重なる「喪失」の先にあるもの—思春期男子の「死の恐怖」と震災体験—

講師：岩宮 恵子（島根大学人間科学部）

内容：親を亡くすというのは、それがいくつであってもその人の在り方を変えるきっかけになる体験であろう。そして思春期に喪失体験が重なると、自分自身の変化と「死」が直結するイメージが、より濃くなる可能性もある。今回は、親の死とそれに続く強烈な震災という大きな喪失体験がありながら、適応を崩すことなく過ごしていた思春期男子が、あるきっかけから「死」のイメージに囚われて深刻な心理的危機に陥ったプロセスについて考えたい。特に、彼が回復していくためには現実的なレベルでの支援も重要になる枠組のなかで、言語やイメージを用いた心理療法の関わりがどのように機能していたのか、そして震災という、治療の場自体にも大きな喪失が起こっている状況とクライアントの状況がどのように呼応していたのか、フロアのみなさんと考察を深めていきたい。

事例提供者：小松 哉子氏

C 事例によって基本的なことを考える

※開催中止

講師：岡田 康伸（京都大学名誉教授）

内容：例年通り、事例に基づき箱庭療法の基礎を考える。事例研究が充実し、いろいろな事例が発表されているが、箱庭療法の基礎をしっかりと知って、それらを検討してもらいたい。そのためにも、常に基本に立ちかえることが大切である。そのために役立ててもらえるような内容にしたい。事例を募集する。なければ筆者が推薦したいと思う。

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。

D 箱庭・イメージの豊かさ・量とセラピーの進展

講師：河合 俊雄（京都大学こころの未来研究センター）

内容：箱庭療法の進展とともに、最初はアイテムが乏しかったのが、多くのものが置かれるようになることがあれば、逆にびっしりアイテムが置かれていたのに、隙間が生じてくることもある。夢分析においても、夢を見なかった人が、夢を見るようになったり、逆に夢が多すぎるような人が、あまり夢を見なくなったりすることもある。セラピーに伴うイメージの多さや、隙間について、自験例から考えて、また事例提供されたものについて検討したい。

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。

E 夢や描画に示される建物としての近代的主体の構造

講師：川寄 克哲（学習院大学）

内容：内閉空間をもつ建築物(たとえば、家や自分の部屋)が心の構造における自我を表象しているという考えは、フロイトやユングがすでに論じているところである。しかし、ここで言われている「自我」というのは近代的主体に特徴的な心の構造にほかならない。本ワークショップでは、人が住まう内閉空間としての住居の歴史的変遷をみていきながら、近代的主体がどのように成立してきたのかを検討しつつ、それが夢や描画などのイメージとしてどのように表象されるのかを考察していく。近代的主体と神経症は深い関係があり、それゆえ、上記のことがらを理解することで神経症の治療のヒントが得られるであろうし、また、オーソドックスな建物イメージから逸脱しているあり方によって、精神病や発達障害の特徴をとらえることも可能になるかと思われる。上記のような観点から、理論的な側面と実践的な側面の両方を見つめながら建物イメージに関して検討していきたい。

事例提供者：今泉 のり子氏

F 無意識に至る通路としての『箱庭』

講師：川戸 圓（川戸分析プラクシス）

内容：心理療法には様々な方法が用いられている。箱庭療法もその1つであるし、また講師が属しているユング派の分析で用いられる夢分析もそうである。さて、それらの療法は何を試みようとしているのだろうか。治療とは一般的には症状を取り除くことであるが、それと同時に症状を作り出すもと、例えば太古からの「人の心の秘密」を知ること、とりわけ「心の病」の場合には、重要ではなかろうか。民俗学者の折口信夫は古代から人が大事にしてきた力として、「類化性能」と名付けた力を論じている。それは、物事を象徴的に理解する力、夢を通して見る力、神話・文学・あらゆる芸能を通じて感じ取る力である。折口によればこういった力を用いて試みられるのは、意識で理解できる世界とは異なる、さらにはその世界を超えた「世界」を感得することである。その世界は「無意識の世界」ともいえるし、折口の用語では「常世」である。そこには太古からの「人の心の秘密」がある。このワークショップでは、「箱庭」が無意識の世界に至る「通路」として機能したことを、事例の分析から明らかにすることを試みたい。

事例提供者：松田 佳子氏

G 男性によく現れるころのあり方や動き方

講師：北口 雄一（北口分析プラクシス）

内容：自分に馴染みのないあり方のクライアントと会うと、わたしたちは無意識に自分に馴染みのある見方と会い方をしてしまいがちです。たとえば、昨今、神経症症状を出せる、つまり神経症圏の方と出会うことが昔に比べて減っているため、そういうクライアントのあり方を前にすると、馴染みがないと体験することも多いと思われます。同様に、心理療法に訪れるのは男性より女性の方が多く、また、セラピストの側も男性より女性の方が多く、カウンセリングという分野では、男性によく現れるころのあり方や動き方は、セラピストにとって馴染みが薄い盲点となりがちです。箱庭療法学会が目向けるイメージとは、まさにその人に現れるころのあり方であり、そこに現れたころという動きです。このような観点から、もちろんすべての男性がそうというつもりではなく、男性によく現れるころのあり方や動き方についてを、今回のテーマにしたいと思います。この案内を読んで、頭に浮かぶ事例がありましたら、ぜひ事例提供にご応募ください。

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。

H 箱庭にどう関わるか（箱庭制作）

講師：桑原 知子（京都大学名誉教授・放送大学教授）

内容：箱庭療法の根幹は、「関係」にあると思われる。箱庭と作り手、箱庭と見守り手、作り手と見守り手など、箱庭療法においては様々な「関係」が動いており、そのダイナミズムの中で、箱庭が治療的に働く。今回のワークショップにおいては、この「関係」に焦点づけ、特に見守り手が作り手にどう関わるか、見守り手が箱庭作品にどう関わるかといった点を中心に、原点に立ち返って、実際に箱庭に触れながら体験し、考えてみたい。

I 箱庭療法における「表現」と「作業」－自己感の乏しいクライアントとの心理療法－

講師：田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

内容：「表現（すること）」は、箱庭療法の治癒要因の一つとして挙げられる。Jung の「夢はそれ自体の解釈である」という言葉どおり、箱庭はそれ自体の解釈であり、そこでは、クライアントとセラピストの双方が、そこに表現されたイメージのもつ①集約性、②直接性、③具象性、④力動性に襲われることになるからだ。他方で、箱庭療法には、砂で形をつくったり、砂と水とを混ぜて捏ねたり、アイテムを置いたり埋めたりといった「作業」という側面もあって、この側面は、とりわけ自己感の乏しいクライアントとの心理療法のなかでは重要であるように思われる。このワークショップでは、西谷晋二氏（山王教育研究所）に発達障害圏の中年女性の一事例を発表してもらい、箱庭療法の「表現」という側面に加えて、その制作が「作業」として、身体を通じて心を掘り返したり耕したりすることにつながる様相について考えてみたい。

事例提供者：西谷 晋二氏

J 箱庭のスタンダードな活用の先にあるもの

講師：弘中 正美（山王教育研究所）

内容：箱庭は心理治療技法のひとつですので、当然治療の枠・ルールの中で活用されます。枠・ルールを超えるときには、それがもたらす危険性のことを考える必要があります。しかし、超えざるを得ない状況の必然性によっては、超えることが何らかの新しい可能性に結びつく場合があります。枠・ルールを守ることができるのかできないのかが問題なのではなく、枠・ルールを越えざるを得ないときに、それが面接を危険な方向に進ませるのか、あるいは新しい可能性に向かわせるのかについての弁別が重要なのです。危険性と可能性を分けるものは何なのか。そのことについての体験や認識が少しでもあれば、困難な選択におけるセラピストの覚悟も違ってくると思われます。

今回のWSでは、箱庭のスタンダードな使い方を外れたにもかかわらず、かえってポジティブな結果をもたらす現象に注目したいと思います。受講者のなかで、そのような体験をお持ちの方は、1回の面接場面でもよろしいですので、WSの中でシェアさせて頂きたいと考えております。当日は講師の自験例を提示し、また受講者の事例を検討する形で進める計画です。このテーマに合った事例をお持ちの方は、大会事務局を通じて早めに講師に御連絡下さい。

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。

K チック及び子どもの心身症に対する箱庭・夢・描画・コラージュを用いた心理療法 －エビデンスとしての箱庭－

講師：森谷 寛之（京都コラージュ療法研究所・京都文教大学名誉教授）

内容：筆者の学位論文は、1987年4月に提出した「チックおよびトゥレット症候群に対する心理療法の研究」であった。チック障害は身体症状が非常に多彩で、複雑である反面、患児たちはその症状について訴えることが乏しいことが特徴である。そのために患児たちの心に何が生じているのかをつかみにくい。ア

アプローチとしては箱庭療法・遊戯療法が有効であった。筆者の研究は主に箱庭作品から症状の意味をアセスメントすることであった。また、箱庭に加えて、夢と描画も役立った。コラージュ療法は、筆者が学位論文を提出した直後（1987年5月）に思いついたものであるが、これも心理療法的手段と症状理解のために有効な方法である。今回のワークショップではこれらの様々なアプローチによって共通に見出されるものを通して、＜エビデンスとしての箱庭＞という観点から検討していきたい。

事例はありません。

L グループ箱庭でカウンセラー・心理療法士のトレーニングを試みる（箱庭制作）※開催中止

講師：リース 滝 幸子（ロサンゼルスユング研究所）

内容：グループ箱庭は、カウンセラーや心理療法家のトレーニングに貢献する可能性が大である。それは、例えば、参加者は順繰りの関わりをもつ遊びの中で、他者との非言語でのダイナミクス、共創のなかで自己発見などを体験し、他者とのオープンな偏見のない関わり、瞬時に対応する柔軟な心の姿勢を育み、また場の全体を把握する洞察力、観察力を磨くなどの可能性があるなどである。このワークショップはまずはじめに、ユング心理学などから観た、グループ箱庭の理論、実践と考察についての講義。つづいて、グループに分かれて実習をし、その後、グループで経験した様々な考えや感情、自己発見などについてディスカッションをする。

参加者：箱庭経験のある方が望ましい。

3. ワークショップの受講申し込み

ワークショップの参加申込は、別紙「第1号通信」を参考に、以下の要領でお申込みください。

1. WEB 申込の場合

別紙 第1号通信 5 頁の「V. 大会参加の申し込み」と同様に右記 QR コードよりお申込みいただけます。ご希望のワークショップを選択し、お申込みください。先着順での受付となりますので、定員になったワークショップから締め切らせていただきます。



郵送による申込の場合

同封の参加申込書に必要事項を記入し、学会事務局へご郵送ください（第1号通信の12頁に学会事務局の宛名ラベルを印字しておりますので、ご郵送の際にご使用ください）。

- 同封の払込取扱票の通信欄に必要事項を記入し、必ず合計金額を記入の上、お申込みから2週間以内に諸費用をお振込みください。お振り込みの際には、必ず参加者ご本人の名義でお手続きください。参加申込と諸費用のお振込みを当方で確認でき次第、参加手続きが完了となります。なお、振り込まれた諸費用は事情の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

ゆうちょ銀行

口座名：00920-0-310345

加入者名：一般社団法人日本箱庭療法学会年大会

4. ワークショップの事例発表申し込み

1. 希望するワークショップ・コースが事例を募集している場合にのみ、お申込みいただけます。なお、事例発表は原則として会員に限ります。

2. WEB 申込の場合

「3. ワークショップの受講申し込み」と同様にお申込みいただけます。「ワークショップ事例発表」のチェックボックスで「発表する」を選択していただき、発表予定題目、共同発表者を入力し、**2021 年 5 月 7 日（金）**までにお申し込みください。

郵送による申込の場合

同封の参加申込書「3. 発表申込」に発表予定題目、共同発表者を記入し、**2021 年 5 月 7 日（金）【必着】**までに**学会事務局**へご郵送ください（第 1 号通信の 12 頁に**学会事務局**の宛名ラベルを印字しておりますので、ご郵送の際にご使用ください）。折り返し、大会事務局より連絡いたします。

3. 事例発表の申し込みが多数あった場合は、講師と相談のうえ選択いたしますので、ご了承ください。

5. 研修ポイントについて

ワークショップ、シンポジウムの両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第 2 条（3）「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、ポイントが付与されます。詳細は、第 1 号通信 6 頁の「VI. 研修ポイントについて」をご参照ください。

MEMO.....

MEMO.....

一般社団法人日本箱庭療法学会第34回大会
ワークショップに関するお問い合わせ・連絡先

■一般社団法人日本箱庭療法学会 第34回大会事務局

E-mail : congress@sandplay.jp

FAX : 0952-37-5122

住所 : 〒840-0806 佐賀県佐賀市神園3丁目18-15

西九州大学 佐賀キャンパス 臨床心理相談センター内

* お問い合わせやご連絡はなるべくEメールにてお願いいたします。

* お電話でのお問い合わせには応じられないので、ご了承ください。